



<ニラの収穫（エコファームグループ）>



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

ならやまプロジェクト	1	病虫害講座	7
Monthly Repo ならやま	2	Galleryならやま	8
里山の今	3	行事案内(I)	9
自然観察会・レポ	4	行事案内(II)・仲間入りしました	10
私のひとり旅	5	幹事会報告・編集後記	11
字遊字感	6		

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

コロナ禍はやや収束しつつあるように見え、社会活動も恐る恐るではあるが少しずつ明るさを取り戻しつつある。ようやく酷暑も過ぎて秋を感じるようになり、感染対策を継続することを前提に、通常の活動時間に戻すこととなった。10月にはイベントが予定されており、整備された学びの森にも迎えることができる。久しぶりに子供たちの笑顔が見られることに元気づく会員も多い。

一方、新たな悩み事も生まれている。かなり前から実りの森辺りでは鹿が散見されていたが、このところベースキャンプにも頻繁に出没し農作物が荒らされている。また、大雨による薪置場や駐車場への浸水対策も必要となっている。こうした問題もできるだけ多くの会員が共有し解決策を見出せるようにできればと思う。

会員アンケートの結果が本誌に同封され会員に配布された。コロナ禍と暑さで活動が制約されて、このところ少しコミュニケーションが低調だったと思われる。通常の活動ができるようになり、こうしたアンケート結果も話題にしつつ、これからの活動について話がはずむことを期待したい。

10月の活動特記事項

協働活動：10月7日 アダプトプログラム、第2駐車場水はけ対策

10月28日 芋ほり

- ① イベント：朝日親と子の自然環境教室（本誌に案内掲載）
- ② 学びの森整備（丸太を利用した機関車が完成、ウェルカムモニュメントの設置も進む）
- ③ みんなの思いが書かれた古代瓦が猿沢池の漁礁に

10月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	枯死木伐倒、林内整備、薪割り、チップ作業、遊びの森イベント対応 ユート：皆伐地区・松山平草刈り
エコファーム	稲刈り・脱穀・・・イベント、佐保台小学校放課後教室への対応 ダイコン類土寄せ、豆類種まき、ピーマン類撤去
景観	整備：BC周辺・彩りの森草刈り整備、ミツバチ巣箱周辺整備 ビオ：水路・池・木道整備、西池水生生物調査、東池水抜き調査 花：葉牡丹施肥、山野草園・菖蒲園草取り、ひまわり撤去、春花種まき
パトロール	1～4コースパトロール、観察路整備・下草刈り、倒木処理、学びの森整備
果樹	実りの森除草、イチジク収穫、キウイ苗床作り、鹿よけ対策

活動日：毎週木曜日 9:00～15:00

前日水曜日の19時現在の気象庁予報（NHKTV奈良 19時前放送）の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌金曜日、木曜日でも同予報であれば中止



Monthly Repo. ならやま

徳地 恵男

8月26日(木)活動 晴れ 61名

朝の打合せて3年ぶりにジャコウアゲハの報告があり、ウマノスズクサ畑を見ると蝶が飛び、葉には幼虫(写真)が成長していた。



里山Gは遊びの森のイベント用遊具の撤去、皆伐地区の下草刈りを行う。エコGは畑にチップを入れ、耕耘、落花生、サツマイモなどの畑の除草に忙しい。景観Gは梅林、花壇周辺の草刈り、展望広場の竹、雑草刈りをする。

バイオ班はザリガニの駆除、花班はアジサイ園の剪定と除草、パトGはエ



ントランス広場の樹木周辺の草刈り、機関車ミニメントの組み立てをした。果樹は実りの森の除草をした。

9月2日(木)3日(金)雨天のため休み

9月9日(木)活動 曇りのち晴れ 60名

前週は秋雨前線の影響で休み、今朝も雨模様だったが次第に天気は回復した。朝の打合せて近畿大学の猿沢池の浄化のために魚礁をつくる取組が紹介され、本会もそれに協力することに



なった。興福寺の古い瓦に墨で各自がそれぞれの思いを書こうという提案であった。

里山Gはマキ棚周辺の草刈り、マキ割りを行う。エコGはダイコン、ニンジンの種まき、ニンニクの植え付けをした。景観G、バイオ班は西、東池周辺、駐車場周りの草刈りを行った。花班は花畑の草引き、パトGは展望広場の草刈り、枕木階段の整備をした。果樹Gは実りの森の草刈りとキウイの苗床づくりをした。

9月16日(木)活動 晴れ 70名

赤と白の彼岸花が満開となりならやまを彩る。今日から午後の活動を再開、終礼も行った。

13日に実施された自然観察会の報告があった。矢田丘陵に講師を招いて多数の参加があった。



協働活動ではシイタケのホダ木の天地替えに全員で取り組んだ。里山Gは枯れたアカマツを伐倒、再利用してベンチを作る。ユート班はアカマツの森まで真砂土を運んでまき広げ



た。エコGはニラ、ピーマンを収穫、各種野菜の種をまく。景観Gは展望広場および法面の整備、バイオ班は池、水路の泥上げ、花班はナデシコ、菊畑の草取りと施肥をした。パトGは自然観察路の笹草刈り、果樹Gはキウイの苗床づくりを行った。



パトロールグループ

里山の今

景観グループ

心をうるおす“みどり”

小島 武雄

今年も我が家のブドウを楽しみました。種はありますがフレッシュな甘さが楽しめます。植えた時は、まさか食べることで期待していませんでしたが、文字どおり毎年の手入れが実を結んだのです。

パトロールGでも植樹をしています。ならやまに本来あるべきで、この地にふさわしい樹木を選び植えることにしました。自然観察路には積極的な植樹は行わない考え方で、部分皆伐地にケヤキ、エゴノキを、彩の森には山桜を植えました。次の年はスダジイ、ツブラジイ、ヤシヤブシなど、成長すれば工作材料として有用な樹木を選びました。それぞれ水辺や、日当たりの良い場所に銘板も取り付けました。

昨年は、里山景観に彩りと作業休憩時の日陰作り、自然学習に役立つ樹木や癒しの得られる花木を選んで、ヤブツバキ、キンモクセイ、カツラ、セイヨウミザクラ、レンギョウ、ハコネウツギ、エゴノキなどです。植樹作業の中で意見をいただき、樹木につく特に人に危害を及ぼす毛虫の発生するものは、人の通り道から遠ざける事。これから大きく成長する樹木による日陰の影響を考える事。また、「そこにふさわしいか？」将来を想像することを学びました。また樹木は植えっぱなしでは健康に育ちません、放っておくとすぐに藪にまみれてしまいます。こまめな剪定や、雑草刈りなどの手入れがかかります。自然林観察路には様々の樹木があります。パトロールGでは、手作りの樹木銘板を数多く



取り付けしています。保護樹木から、この木なんの木まで、ぜひ観察路を歩いて見つけてください。

←樹木保護、銘板取り付け

セリの花・・・いま思うままに

吉田 英子

入会させていただき、一年になります。はじめて伺った時のならやまの印象は、皆さんの活き活きとしたお姿と、見渡す風景で心おだやかさを感じ、池田さんにお誘いいただき、感謝の中で即決をして毎回楽しみに出席しておりましたが、暑さに負けて8月より休んでいます。

7月29日(木)作業中に芹の花を見つけました。白いかわいい花で水際の草と共に引き上げ、草の陰に置き、終わ



れば持ち帰るつもりでしたが、急いでいたこともあり、見失ってしまい残念に思っていました。1月7日の七草粥の折、西谷さんより写真をもらって知ってはいましたが、実物ははじめて。効能もプリントを開けますと書かれているのを見まして、すばらしい効能があります。書かせていただきます。

-効能- 利尿、解毒、リュウマチ、冷え症、消化

-料理- 一つまみの塩を入れた熱湯でゆで、水に取り冷まし、おひたし、あえもの。生のままで鍋物、汁の実として香りを楽しむ。煮すぎるとかたくなり味も落ちる。根っ子があれば、毎年育つ「芹」。やわらかいうちに、活用できたらと思いました。



花班については？草取りにおわれる日々で、何も考えられませんかというか、よくわかっていないため、参考になるような事は考えられません。けれども広範囲で人数も少なく、ごいっしょ出来る方がもう少し多ければ、もっとゆき届いた草引きができ、きれいな花、大切な花が育てられ、皆さんに見学に来ていただけるのではないかと思います。今年は、はやと瓜の立派な棚を造って下さり、今頃は蔓ものび、黄色い花がいっぱい咲いているだろうと思い、体に自信をつけ、復帰したいと思っていますので、その節はよろしくお願いします。

自然教室チームだより 9月行事報告 初秋の矢田丘陵大和民族公園 自然観察会 辻本 信一

令和3年9月13日(月)コロナ禍による自粛が続く4月以来5か月ぶりとなる自然観察会を矢田丘陵大和民族公園にて実施致しました。

今回は待ちに待った田代貢先生の2年ぶりのご登場とあって、はじめて参加された7名の方を含め、予想を遥かに超える17名の方にご参加いただきました。



【朝の集合】

その日の天候はというと、これまでコロナによる自粛で我慢を強いられてきた私たちへの天のご褒美かと思えるくらい強い日差しも終始遠慮気味、爽やかな絶好の観察日和となりました。

田代先生にご用意いただいたA4(3枚)B4(1枚)の情報満載の図解入り資料が全員に配られ、9時定刻に観察会スタート。集合場所ともなったケヤキの前では、大きさの違う2種類の葉というテーマで、葉腋に種子をつけた小さな葉が複数ついた枝の落枝による種子散布の説明を受け、本日観察会の口火が切られました。



【ケヤキの2種類の葉】 【マムシも急遽教材に】

移動してすぐ、参加者がマムシの死骸発見。田代先生にかかってはこちらもすぐに教材となりました。「マムシの尻尾はどこでしょう？」答えは、お尻の方にうろこの数が1枚から2枚に変わる部分がありそれ以降が尻尾です。

その後もコロナ対策として午前中(3時間)に限定した観察時間内に、資料に基づく30以上ものテーマをテンポよくご説明いただきました。

限られた紙面にその全ては紹介できませんので、ほんの一部ですが紹介させていただきます。

ご興味いただいた方には次回観察会に是非ご参加いただき、田代先生の説明を直にお聞きいただくことをお奨めいたします。

・母の愛を感じさせるような植物の温かさ

【プラタナス】 葉の柄に隠れた新芽(葉柄内芽) 一般的に葉腋(ようえき：葉の腋)には芽ができますが、プラタナスには見当たりません。それは母の体内のような葉柄の中にあり、しっかりと守られていました。

・植物の個性あるこだわりに感動

【ヤブガラシ】 ツルのつき方、出方、巻き方 ツルのつき方を見ると-ツル-ツル-休み-ツル-ツル-休み-の規則性が見られます。また巻き方はツルの先が物につかまり固定したのち真ん中あたりからツル自身がよじれた仮撚り状態で、延せば真



【ツルの出方実物で説明】

っすぐに。

・意地らしいほど精巧に

【ユリノキ】 芽のマトリョーシカと葉仕舞い 托葉で包まれたユリノキの芽の内部をカッターで切り開いてみるとマトリョーシカのように次々と托葉ときれいに折りたたまれた若い葉が現れます。冬芽の収納には植物それぞれにこだわりの葉仕舞い(葉の折り畳み)が見られます。



【ユリノキのマトリョーシカ】

自然にまつわる感動の話はまだまだ続きますが、残念ながら、やはり、ほんの一部の紹介に終わってしまいました。次回はみなさんご自身の目と耳で田代先生の”目からうろこのお話”をご堪能下さい。

私のひとり旅

飯島 八重子



その時私は心に決めた。友を待っている何も実現出来ない、自分でアクション起こそうと。

自分なりに使えるお金が貯まった時、息子に「車を買うか旅行に行くか？」迷っている旨を話すと「お母さん、車はボロでも走ったらええんや、それより海外旅行に行った方がええ！体力のあるうちに、僕はそっちを勧める」と私の背中を押してくれた。それが決心した私なりのひとり旅デビューだ。最も一人といってもツアーひとり参加なので本当のひとり旅とはいえないが、それでも私にとっては大きな心の準備がある決断だったのだ。旅行催行時の自由時間の時は、一人見知らぬ土地に放り出された気分で、心細さと緊張で一人参加を後悔したくらいだ。しかし何でもその気になれば何とかかなる、と思えるようになったのもこの旅行のお蔭だ。言葉も、笑われるが片言の英語と、身振り手振りで何とかなった。「行きは良い良い帰りはまいご」の方向音痴の私が、英語で書かれた地図を片手に美術館に行き、ゆっくり館内見学できた時は感動ものだった。ましてやホテルの部屋などは気遣い無用の私の為の一室となったのだ。これは私の人生の中ではすごい出来事なのだ。

この旅行以来、私は一人旅冒険(大げさだが)がお気に入りとなった。家族旅行もするが、近年は1週間から10日前後の九州旅行が多い。主にカーナビ付きのマイカーと共に。これが無いと何処にも行けない。旅先のレンタカーもカーナビ付きでないと、にっちもさっちも行けないのだ。いろいろ行く場所を細かく決めて行くこともあるし、あえて何も調べないで行くこともある。行ったら観光案内所でお勧めスポットを教えてもらう。皆さん親切で優しい。今この時しか見られないなどの情報は現地しか分からない事がままある。

最近宮崎県から熊本、大分、福岡、長崎など10日間フェリーで出かけた。行きたかった宗像大社沖津宮遥拝所のある大島に行ったが、ここでも親切な地元のご婦人が車で大島の島内を案内して下さいました。



また離島の壱岐の島では何も調べずに行き、観光案内所に飛び込んだら、今なら間に合うお勧め神社、潮の引いた時しか参道が現れない離れ島にある小島神社

を教えて下さった。島内で、お囃子の笛の音色に急停車すると、新嘗祭のご神事の真最中、深江神社の壱岐神楽の奉納に招き入れて下さったり、帰りはどうぞと、奉納されたお供物やらお札、神様の奉銭などを下さったり恐縮した。これも旅の恩恵！

壱岐より船で行く無人島の辰の島で、浜に打ち上げられた、つがいのタルイカの大きさに驚いたり、絶壁の山上から打ち寄せられる荒波を這いつくばって見たり、山道を降りるときに野生の鹿に道を塞がれ、にらめっこしたり、今回の旅行は思い出多いものとなった。



実は私の「死ぬまでにしたい事リスト」の中に、一カ月旅行で行きたい所、そこでやりたい事というのがあるが、その実現はコロナ禍でますます遠のいてしまった。そうこうしている内に、忍び寄る年波に勝てず、体力気力も衰える。私のそれは夢のまた夢になりそうだ。



悟りの一直線

吉川 利文

ならやまの木々についての図録の編集作業が佳境に入っている。

そんな折、編集委員長の鈴木前会長から、一通のメールが届いた。図録の中に織り込むコラムについての提案だった。

神社仏閣の建築で生涯、木材と取っ組んできた宮大工西岡常一氏の樹木に対する気持ちを吐露した名言を紹介しながら、「日本の文化は木の文化である」という教訓をまとめた試案を示されたのである。

西岡氏は言う。「木を買わずに山を買う。山の環境を見て木の癖を考える。木は育った方位のままに使う」。

大工さんだから、材木を思いのまま自在に切ったりつなぎあわせたりするのだろーと思って、いたが、どうも違う。木をあるがままに受け入れる、という考えを強調される。

「木は大自然が生み育てた命ですがな。木は物やありません。生き物です。人間もまた生き物ですな。木も人も自然の分身ですがな。この物言わぬ木とよう話し合って、命ある建物に変えてやるのが大工の仕事ですわ」。

うーむ。道を究めた人の極意とは、悟りとはこういうことか。読むほどにいろんなことを触発される。私は僧侶である。まず釈迦のことが思い浮かんだ。

29歳で出家した釈迦は最初、自分の肉体を責める厳しい難行苦行で修行したが、悟りを得られなかった。何事も無理や極端はいけないと思ひ直し、苦行でもない、享乐的でもない「中道」で修行し直すなど曲折を経て35歳の時、遂に悟りを得られたという。その内容は「四諦八正道」という言葉に集約されるとされる。四諦というのは四つの真理という意味である。つまり①人生は苦であると認識すべし②苦の原因

は、ままたらない欲望や老・病・死にこだわる「煩惱」である③苦の原因は断つことができる④その方法は、正見(正しい考え)、正思惟(正しい意思)、正語(正しい言葉)など八つの正しい行いを実践することである、とされる。

この悟りについて仏教学者のひろ・さちや氏は著書「釈迦」の中で見事に解釈して見せる。

「人間の老・病・死はままたならないものである。思うがままにしようすると老・病・死はたちまち苦になる。愚かなことだ、と釈迦は考えた。思うがままにしないものは思うがままにしようとしなければいい。つまり、楽しみながら老いばいい、病むときには病めばいい、そして、のんびりと、ゆったりと死ねばいい。そうすれば苦にならない。苦にするな！釈迦は若き日の自分に向かってそう教えた。それが四諦なのである」——と。

同じようなことを言った人がいる。江戸時代の僧、あの良寛である。文政8年(1828)に今の新潟県に大地震が発生した。良寛はその地に住む知人にこんな見舞状を出した、という。

「災難に逢う時節には災難に逢うがよく、死ぬ時節には死ぬがよく候。是(これ)はこれ災難を逃がる妙法にて候」。

なんと無責任な。僧侶が言うことか。私には良寛の手紙の意味が長くわからなかった。

しかし、ひろ・さちや氏の解釈を知り、「そうか、そういうことか」と胸に落ちた。良寛の言葉は釈迦の悟りだったのだ。いま西岡氏の名言を聴いてさらに納得した。西岡氏は「個性を殺さず癖を生かす。人も木も育て方、生かし方は同じだ」という。つまり、すべてあるがままを受け入れよ、自分の思うがままにしようとするな、それが人や物の活路を見出す道なのだ、と教えてくれている。これで、釈迦→良寛→ひろ・さちや氏→西岡氏、と一直線につながった。

さて、うっかりしていた。鈴木編集委員長の提案は置いてきぼりだ。さぞイラだっておられることだろう。どうしたらいいのだろう。

病害虫講座-43

(ヤマノイモの病害虫)

木村 裕

野山で勝手気ままにはびこっているヤマノイモでは病害虫の発生はほとんど見られませんが、いざ栽培すると害虫や病原菌はぬけめなくやってきます。

【ヤマイモハムシ】

頭が赤くて、体が青色のツートンカラーの綺麗な甲虫がヤマノイモの葉をかじって孔をあけます。表面を浅くかじられた葉はその部分が褐色になって枯れます。一匹や二匹では実害はありませんが、大挙してやってくると被害甚大です。

幼虫も葉をかじりますが、自分の糞を背中に載せて姿を隠しています。外見は泥の塊がついたようで、動きがほとんどないのでまず気が付かないでしょう。

防除は薬剤を散布するか、手による捕殺です。



【ヤマノイモコガ】

葉の裏に小さなアオムシ（淡黄緑色で地味で目立たない）がへばりつき、葉を浅く食害します。そのため、食害を受けた部分は半透明になります。



成虫は地味な小さな蛾ですので、まず見つかりませんし、何も悪さはしません。

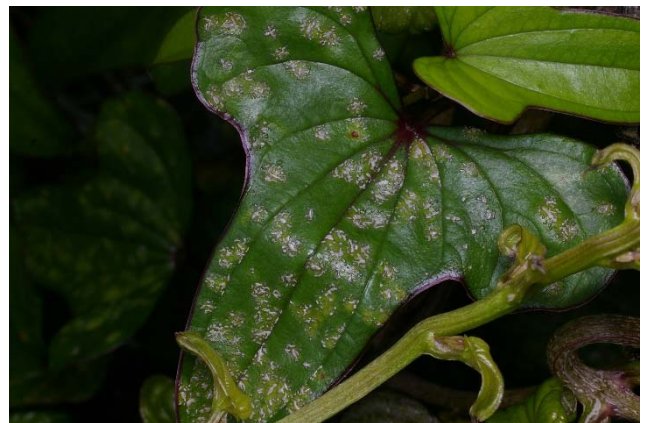
とくに防除する必要はないでしょう。

【葉波病】

葉に淡黄色で小さな丸い斑紋が現れ、その上に白い粉のような物が付着します。

通常はあまり発生しませんが、ときおりドカッと多発します。

予防的には支柱をたて、風通しをよくします。多発すると、薬剤散布しても防除はなかなか難しいです。



【キイロスズメ】

尾端に角のような突起を備えた大きなイモムシが葉をむしゃむしゃと暴食します。数は少なくても体が大きいので食べる量は馬鹿になりません。見つけたら手で捕えましょう。体色には緑色タイプと褐色タイプがあります。



Gallery ならやま



▲油絵 10号 「秋篠寺」 永井 幸次



▲陶芸 「ペンダント」 桜木 晴代



▲スケッチ 「キノコ」 高間 祥子



▲ペン画「東大寺南大門金剛力士 吽像」 境 寛

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

行事案内 Part1



朝日親と子の自然環境教室のご案内

辻本 信一

「親子で自然に親しみ、自然の不思議さ、素晴らしさ、大切さを学び、合わせて親子の触れ合いに役立てる」をテーマに、毎年、実施されてきたシニア自然大学校主催、朝日新聞社・朝日小学生新聞後援の「朝日親と子の自然環境教室」も、昨年はコロナ禍により、当会フィールドでの農事体験は中止を余儀なくされました。

今年は今も続く新型コロナウイルスの感染状況に注意を払いながら、万全の対策を講じ、非常事態宣言等の発令のないことを条件に、稲刈りを中心とした農事と、里山での活動を下記内容にて体験していただきます。

1. 日時：10月17日(日) 10:30～15:30

当会申し合わせ通りではありますが、前日奈良北部の降水確率が50%以上の場合は中止とし、雨天予備日を10月24日(日)といたします。

2. 主な内容：

午前：稲刈りを中心とした農事体験

午後：里山での自然観察と自然遊び

詳細は担当幹事の皆さまにお決めいただきます。

3. 参加者：朝日新聞社・朝日子供新聞を通じ 事前に応募された近畿一円よりの30組前後の小学生児童の親子

シニア自然大学校よりスタッフ10名

コロナ対策として、マスク着用はもちろんの事、検温等の健康管理と密を避けた活動を徹底し、昼食に際しても、互いに十分な距離を確保していただきます。更に会場では十分な数のアルコール消毒液、手洗い洗剤をご用意いたします。

今回も、安全かつ参加者の皆さまに優しく丁寧に接していただけるスタッフの皆さまを約30名募集いたしますので、何卒、ご協力の程よろしく願いいたします。

自然教室チームだより 10月行事案内

秋の奈良公園・自然観察会

辻本 信一

昨年初めより全国に広まったコロナ禍は、その後も終息の兆しをみせず、私たちにとって鬱なる状況が今も続いておりますが、自然教室チームでは、このような時こそ真摯に自然と向き合い自然を見つめなおすべしと考え、今後想定されるウイズコロナの時代にマッチした活動を模索してまいりました。

そうした中、ほとんどの会員がワクチン接種を終えたこの時機を捉え、9月には当チーム専属講師ともいえる田村貢先生をほぼ2年ぶりにお迎えし、予防対策も万全に、矢田丘陵大和民族公園にて自然観察会を敢行致しました。

結果として、参加者の皆さまからは予想以上の好評をいただき今後の観察会実施につきましてもたくさんの方の支持を得ましたので、当初の計画通り、令和3年10月25日(月)再度田代先生をお招きし、奈良公園南部を中心とした自然観察会を下記要領にて実施させていただきます。予約は不要ですので、初めての方も、奮ってご参加ください。



1. 日時：10月25日(月)

午前9時(開始)～正午(解散予定)

2. 集合：近鉄奈良駅、行基菩薩像前

3. 持ち物：お飲み物(あれば図鑑、ルーペ)

マスク着用。当日体調不良の方は参加をお控えください。

4. 観察ルート：近鉄奈良駅を起点に飛火野・

鹿苑・春日若宮神宮・志賀直哉邸付近まで

5. 雨天時実施の有無：申し合わせ通り

但し、雨天時は翌週の11月1日(月)に予備日を1度だけ設けます。

6. 担当：自然教室チーム 富江/辻本



行事案内 Part 2

20周年記念研修旅行のご案内 (再掲載)

紅葉の大台ヶ原(東大台)・奥大和の散策

富井 忠雄

※9月号掲載のご案内(10/18-19研修旅行)の催行日を変更しました。コロナ感染状況は大幅に改善されてきており、より安心して実施できることを願い2週間延期し、11/1-2に実施いたします。

昨年計画していた一泊研修旅行はコロナ禍のため延期いたしました。コロナ禍は未だ先が見えない状況ですが、ワクチン接種者も増え十分対策をとったうえで、今年は行き先も変更して実施したいと考えています。雄大な自然から力をもらいコロナ疲れを癒しませんか。皆さまのお申込みをお待ちしています。

*但し状況によっては中止することもあります

【実施要領】

1. 実施日: 11月1日(月)~2日(火)

*雨天実施

2. 集合: 近鉄奈良駅前奈良商工会議所前 8時

3. 持物: 飲み物・雨具・ハイキング靴・ストック

4. 会費: 25000円(宿泊料・昼食・バス代他)

5. 申込先: 富井忠雄

6. 宿泊: ホテル杉の湯 TEL0746-52-0006

7. 行程:

1日: 奈良商工会議所前 8時-桜井-169号-道の駅杉の湯川上-大台ヶ原駐車場-東大台散策(昼食)-大台ヶ原駐車場-309号ナメゴ谷-ホテル杉の湯 17時頃(泊)

2日: ホテル杉の湯 9時-丹生川上神社上社-蜻蛉の滝-丹生川上神社中社-七滝八壺-ふるさと村(昼食)-天誅義士の墓-八咫鳥神社-針-近鉄奈良駅前 17時頃

【世話人: 福田、青木、戸田、富井】

仲間入りしました



清原 正彦

妻の両親の介護で25年過ごした熊本から、今年2月に大和郡山市にUターンで転居してまいりました(生まれは大阪)。

熊本では10年余り小さな里山ボランティア団体で、限界集落の高齢者支援を兼ねて、樹木伐採や特殊伐採の真似事、草刈り、竹林整備などの活動をしていました。

奈良でも森林ボランティアに携わりたいと願っていたところ、貴会のことを知り、早速入会させていただいた次第です。とても活発に活動されている様子に圧倒されています。

野菜栽培は不得手ですが、伐採作業や草刈りは大好きです。

樹木伐採の技能は奥が深く、また安全重視の行動が求められます。先輩諸氏には、いろいろとお教えいただくこともたくさんあると思います。どうぞよろしくご指導のほど、お願いします。



11月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動(木) 11/4 協働活動日

*月例研修会 11/1-2 大台ヶ原一泊研修

*自然教室 11/24(水) 奈良公園 紅葉狩り

2021年9月度幹事会報告

日時：8月31日 15:00～17:00

I 会計、総務部より

- ・会員動向：会員162名 変更なし
- ・会計報告：支出：運搬車、枕木ほか

II 活動・行事関係

*イベント関係

- ・朝日親と子・・・：事態改善しなければ中止。
- ・芋掘りイベント：佐保台小の活動状況確認

*ならやまプロジェクト関係

- ・協働活動：椎茸榎木天地替、展望台整備
- ・緊急事態宣言が発令されれば活動は中止。但し各グループの判断で必要な自主活動は認める。できるだけ木曜日に行く。
- ・9月中は午前中の活動とする。
- ・男性の水当番：10月から月単位で各G担当に変更する。10月は里山グループ担当。

III 企画、助成金事業案件

- ・図録集：樹木153種の第1回校了完了
- ・記念誌：会員と寄贈先+αで300冊作成
- ・会員アンケート：(同封の結果報告参照)
ならやま活動についてはほぼ満足しているが、高齢化もあって負担感が増加している。それでも異口同義に、かけがえのない活動の場、生活の一部など、ならやまの素晴らしさが記述されている。この結果を踏まえて、ならやま委員会や各G研修でこれからのならやま活動を考える議論につなげたい。
- ・各種助成金についての状況説明あり。

IV 喫緊、提案事項

- ・興福寺古代瓦による猿沢池の魚礁作りに20周年記念事業の一環として参加する。

V 広報、関係

- ・ネイチャーなら 10月号編成案の確認他

VI 報告、連絡事項、その他

- ・月例研修会：9月中旬に可否判断
- ・自然教室：9/13午前中のみで実施
- ・第2Pと薪割り場の水捌けについて検討

次回幹事会：9月28日

以上



<四苦八苦>

ならやまのあちこちに腐葉土が積んであり、掘り返してみると、決まってカブトムシの幼虫がいる。幼い時は見つけると家に持って帰って育てていた。でも、近頃は見つけたら、そっと腐葉土の上に置いておく。そうするとゴソゴソとミミズのように伸び縮みしながら土の中に潜っていく。

最近、新聞記事を見つけた。幼虫の潜り方について調べた人がいたようだ。土が軟らかい所はミミズみたいに伸び縮みしながら潜る。これは知っている。次は堅い土にぶつかった時、土の中ででんぐり返しのような回転運動を繰り返して、時には体をねじって向きを変えて、柔らかい部分を探して掘り進むとのこと。どこまで深く潜ったら満足するか、までは書いていなかった。これにはビックリ。どうしてこんな動きをするようになったのかなあ。四苦八苦の結果がDNAにすり込まれたのか。

そういえば、我が家のドラム式洗濯機はいつも脱水の時に四苦八苦している。洗濯物が偏ったらドラムを高速で回せなくなる為のようだが、止まったり、少し水を入れたり、逆に回してみたり。それで、あきらめたら「ピー」と音を出して止まる。いつも同じで何の工夫もしない。そして、すぐにあきらめる。

人間の作った物はあきらめるプロセスが組み込まれる。安全の為かも知れないけど、早い。カブトムシはあきらめないのかなあ。いいや、「人間はあきらめない。方向を変えるだけだ」と言い訳をする。これって進化したから。こんなことを考えながら虫の声を聞く季節になった。

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

表紙写真：ニラの収穫(エコファームグループ)
収穫したニラは、雑草を除き薄皮をむいた後、束ねる作業をします。